

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容
I. 理念・安心と安全に基づく運営					
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B. ほぼできている	法人の理念と事業所の理念を混同して理解している職員が多くいました。事業所の理念は「終末期を自分らしく生活していただく」事です。職員に周知しそれを理念として利用者と関わって行けるようにしていきたいです。	
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	D. ほとんどできていない	施設内で新型コロナウイルス感染症が発生してから、外部との接触を避けていた為地域との交流は大幅に減少してしまいました。そんな中でも職場体験の受入れでは、利用者に関わる前に抗原検査を実施する等して可能な範囲で行いました。	<ul style="list-style-type: none"> ○事業所が地域との関わりを積極的に行うことで、グループホーム及び認知症の人の理解が進んでいくと思います。コロナが5類になった後の活動に期待します。 ○新型コロナウイルス感染症が減少してきたがまだまだ安心できない状況と思いますが交流ができる環境整備が必要。 ○新型コロナウイルス感染症対応により、地域との交流減少しながらも可能な限りおこなえたことはいいと思います。
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	C. あまりできていない	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で運営推進会議が1回しか行えなかったのが書面での報告にとどまっています。	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍においても書面開催を実施していただきありがとうございます。今後はどのような状況においても対応できるようにオンラインによる開催もご検討いただけると良いかと思います。 ○書面での報告でもよいと思いますが内容について説明がないと分からない事があるので補足の説明が欲しい ○書面開催は仕方ありませんが、参加者意見を取りまとめたものをフィードバックさせてください。運営推進会議は他のサービスと同日開催しないようにとりくんで下さい。
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	C. あまりできていない (前回B)	事業所の課題や問題点を外部へ相談するという事があまりなかったように思われます。市役所や他事業所との連携を強め協力関係を築きより良いサービス提供に繋げていく事は今後の課題となると思います。	<ul style="list-style-type: none"> ○介護サービス事業は行政との関係を切り離すことはできません。課題や問題点の相談以外にできる行政へのアプローチ方法を検討していただければと思います。包括としてもご協力させていただきます。 ○安城市の中にあるところばかりですので行政に相談したり連携を強める事でさらにケア・サービスの向上が望めると思う。 ○グループホーム部会など参加し、外部の意見を参考にして取り組んで下さい。
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	B. ほぼできている (前回A)	法人内研修に加え、身体拘束廃止委員会からも「スピーチロック」の研修を行い目に見えない身体拘束も廃止して行く事に取り組みました。今後も継続して取り組み理解を深めていきたいと思っています。	
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	B. ほぼできている (前回A)	法人内研修の実施と虐待防止委員会が取り組んでいます。現状、虐待はないと楽観せず、定期的にミーティングで話し合うなど防止に努めて行きたいです。	
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	C. あまりできていない (前回B)	法人内研修にて権利擁護の研修を行っており、一人一人の人格を尊重したケアを提供ができるようにしている。研修内容を制度まで広げ、成年後見制度や日常生活自立支援事業などについてまで職員の理解を深める必要があると思います。	
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	B. ほぼできている (前回A)	今年度は臨時の介護報酬改定があり、書面で説明をした上でご家族からの同意をいただきました。書面以外でも面談や電話連絡にて問い合わせをされる方もあった為、再度ご説明し対応する方もありました。	
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	C. あまりできていない (前回B)	意見箱を設置しているが、投函される事はほぼありませんでした。面会時・電話連絡時に直接口頭で意見や要望を受ける事はありました。公表などはしていないため、今後は職員・外部への公表の方法を検討していきたいと思っています。	

10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	C. あまりできていない (前回B)	毎月のユニット会議において意見の聴取をするようにしているが、勤務の関係で全ての職員が出席できるわけではありません。個別に意見を受ける事もありますが、職員それぞれの意見をすり合わせる事が困難で今後の課題と感じています。	
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	D. ほとんどできていない (前回C)	目標管理シートを人事評価のツールとして活用しているが、その評価がやりがいや向上心に繋がっていないと思います。目標管理シートの内容の見直しや評価方法の再検討が必要と考えます。	
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	C. あまりできていない (前回A)	法人の資格取得支援制度を利用して実務者研修を受講した職員がいます。特に無資格者や未経験者には資格取得を勧めています。今後も職員のスキルの向上には積極的に取り組んでいきたいと思ます。	
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	C. あまりできていない (前回B)	グループホーム部会への参加にて他の事業所との交流はあるが、一般の職員には交流する機会はほぼないようです。	
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	C. あまりできていない (前回B)	一人一人が必要とされていると感じられるよう、役割・仕事をしていただくようにしています。まだ十分に活動を提供できていない利用者もいる為、一人一人に合わせて検討していきたいと思ます。	
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	C. あまりできていない	新型コロナウイルス感染症の影響で面会・外出制限があり、実現できない事が多いです。ご家族の写真や昔からの趣味の物を居室に飾るなどして可能な範囲で努めています。	○コロナ禍においては致し方無かったように思ます。できる努力はさせていただいていると思ます。5類になってからの支援に期待します。 ○写真や趣味の品々を目にすると昔を思い出します。また孫の声(スマホやテープ)が聞けるといいかもしれない ○コロナ禍においては仕方がないと思ます。
II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	C. あまりできていない (前回B)	日々のケアの中で表出される要望や意向を見逃さないように心がけています。これを共有し暮らしに反映させていく事が課題と考えています。	
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	B. ほぼできている	一人一人の状況に適した方法でケアを提供できるよう、関係者との情報交換をしてケアプランを作成しています。それぞれの課題に対してPDCAのサイクルで取り組みより良い生活に繋がれるよう心掛けています。	○見習うべき評価ではないでしょうか。我々も貴所のようにプランニング、モニタリングが実施できたらと思っています。是非、具体的な方法など共有できたらと思ます。 ○日頃から業務日誌等に引継をすると共に介護計画に即した支援を行って下さい。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	C. あまりできていない (前回A)	モニタリング表を使用し、問題点や課題が発見しやすくなるようにしています。問題点や課題を発見した時には計画作成担当者を中心にケアの見直しを実施しています。	
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	C. あまりできていない (前回B)	職員の業務を中心として生活リズムがつくられてしまう事が無いように、利用者一人一人の生活を中心として柔軟なケアを提供して行けるようにミーティングにて話し合い意識改革に取り組んでいます。	○大変難しいことではありますが、各職員の方の創意工夫で支援していただければと思ます。 ○意識改革とはどのような改革なのか？利用者一人一人の生活を中心はとても難しいと思ます。 ○利用者及び家族と意見や要望を取り入れながら支援ができるように努めてください。

20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	B. ほぼできている (前回C)	新型コロナウイルス感染症の影響がありましたが可能な限りの外出を楽しんでいただけるように配慮し、主に屋外での活動を提供しました。特に桜観賞・コスモス観賞は大変喜ばれました。	○貴所も包括も地域資源の一つです。地域には多くの資源があると思っています。まず地域に何があるのかを把握し、どのように活用したらいいのかをともに考えられたらと思います。 ○外の空気を数事は脳の活性化にもなります。梅・さくら・コスモスも良いですね。 ○コロナ禍において可能な事を行っている事は評価できます。
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	B. ほぼできている (前回A)	ご家族からの要望に応じて、内科(2医院)・心療内科・精神科・眼科・歯科(2医院)が訪問診療をして下さっています。その他、耳鼻科・皮膚科・整形外科など訪問診療に対応していない医院についてはご家族の付添いで受診していただいています。	
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	C. あまりできていない (前回A)	利用者が入院した場合には、密に連絡を取り合い情報交換をするようにしています。しかし、事業所での対応可能な医療体制が病院とは共有できていないので、今後は病院関係者との関係づくりが課題となると考えています。	
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	C. あまりできていない (前回A)	グループホームの利用者や相談者に対して、ACPIについてご説明し、話し合いをしていただけるよう取り組んでいます。また事業所内でもACPIについて説明し、利用者一人一人の終末期のあり方について理解できるようにしています。	
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	C. あまりできていない	法人内研修において体調の急変や事故発生など緊急時の対応ができるように研修をしています。また、体調の急変時には法人内の他事業所に配属されている看護師に対応を依頼する等、可能な限り最善の対応をするようにしています。	
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	B. ほぼできている	年に2回の施設全体の防災訓練にて利用者の避難・被災時の対応を訓練し身に付けています。防災についての地域との協力体制はまだ築けていないと感じる為、今後の課題として検討する必要があると考えます。	○包括も地域との災害における協力体制は築けておりません。地域の防災訓練への参加等をはじめとして、介護サービス事業所としても何をしなくてはならないかを考えていけたらと思います。 ○年に2回の防災訓練は大変と思います。職員がどのように動くかが重要となります。確実なマニュアルが必要です。 ○利用者の避難訓練を継続的に行うとともに特定避難所としての対応できるよう施設内での取り組みを行って下さい。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B. ほぼできている	職員は常に利用者の人格を大切にしてケアを提供しています。言葉遣いのみではなく表情や態度でも安心感を与えられるように気を配っています。もし気になる言動をする職員がいた場合には管理者へ相談し、個別に対応するようにしています。	
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	B. ほぼできている	一日の中で最低限の生活の流れはあるが、それを無理強いせず飽くまで本人の生活のペースを尊重するように指導しています。しかし、まだ寄り添いきれていない部分もあるので、今後の課題として取り改善に組んで行きたいと思っています。	
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	B. ほぼできている (前回A)	食事の前に嚥下体操を実施したり、献立を伝えたりすることで日々の食事を美味しく楽しめるように配慮しています。また、畑で取れた食材を紹介して食事を使用することで食欲を増進できるように取り組んでいます。	
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	B. ほぼできている (前回A)	食事は外部に発注し栄養バランスの取れた食事を提供しています。また、毎月利用者の体重を測定し食事摂取量を照らし合わせる事で栄養状態の管理も行っています。毎日の食事・水分摂取量が日ごとに確認出来るようにしています。	

30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 十分にできている	口腔ケアを強く拒否してしまう利用者も居るため全員ではありませんが、週に1回訪問歯科にて利用者の口腔内の診察と職員への口腔ケアの指導・アドバイスをして下さっているため、適切に口腔ケアを行えている方が多いです。	
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	B. ほぼできている	一人一人の排泄のパターン把握できるように排泄記録をし、れに合わせてトイレ誘導を行っています。必要に応じて排泄支援を見直し、可能な限りオムツは使用しないように取り組んでいます。	
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	B. ほぼできている	入浴の曜日や時間帯の予定は職員の都合によって決定してしまっているのが現状であるが、実際に入浴のタイミングでは本人の気持ちや意向を聞き取り柔軟に対応するようにしています。	
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	B. ほぼできている	一人一人に夜間の安眠が確保できるよう、個別に活動を提供するようにしています。また日中の仮眠時間も管理し不必要な休息をとらないように管理しています。必要に応じて夜間の睡眠の状態を測定できる機器を使用し安眠に繋げています。	
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	C. あまりできていない (前回B)	毎日のチェック表にて一人一人の服薬の管理を行い、計画作成担当者によって薬剤情報の更新などを行っています。しかし、服薬漏れの事故もあるためユニット内で服薬管理のルールや薬剤師との連携方法を見直す必要があると考えています。	
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	B. ほぼできている	個別に役割仕事を実施していただいたり、散歩や塗り絵を日課にさせていただいたりしてそれぞれの生活に楽しみを持って頂けるように支援しています。それが形骸化しないように工夫し、新しいことにチャレンジして行く必要があると思います。	○記述からいかにアセスメントが大切であるかと再認識しております。上記に記載しましたが、どのようにされているのかを教えていただければ幸いです。 ○これは入所者の皆さんにとって生きがいを感じる1つです。これからも継続して頂きたい。 ○継続的な取り組みをお願いします。
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	D. ほとんどできていない (前回B)	レクリエーションにて花の観賞やドライブ等は実施しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響があり、気軽に外出することが出来ず施設外周や近所の散歩以外には日常的な外出はできていません。	○制限がある中での外出支援は本当に難しいものがあつたと推察します。今後に期待します。 ○新型コロナウイルス感染症もかなり減少してきています。まだまだ安心できませんがこれからは少しずつトライすることもいいかもしれません。 ○利用者と家族と相談しながら外出支援を行って下さい。
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	C. あまりできていない (前回B)	本人が小銭を持っていて施設の自動販売機で飲み物を購入される方もいるが、金銭の紛失や管理方法を心配されるご家族が多く、ほとんどの利用者が金銭の使用をしていません。	
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	C. あまりできていない (前回B)	ご家族からの手紙や写真は居室にて保管しいつでも見られるようにしており、また本人から電話の要望があれば、電話を使用する事も可能です。しかし、これが利用者にはあまり周知されていないので、今後は周知し推進していきたいと思っています。	
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	B. ほぼできている	共用空間は季節ごとに適した飾りをするようにしています。また、通路には物を置かないようにして利用者が生活しやすいように考えて配置をしています。また、室温や音・明るさなどの環境設定にも配慮しています。	

IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)

40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	B. ほぼできている	日常の中で表出される希望・想いに対して、可能な限り実現できるように取り組んでいます。認知症の影響でご自身の思いを表出できない方もいるため、職員・ご家族とのカンファレンスを重ね都度検討していきたいと思ひます。	
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	B. ほぼできている	一人一人の情報を基にケアの方法・方針を計画作成担当者を中心にご家族・職員と話し合いながら決定しています。全員の過去の人生を把握しきれないので今後も継続して情報収集・共有に努めていきたいです。	
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	B. ほぼできている	定期的にバイタル測定・体重測定を実施し経過を管理しています。体温測定は1日2回実施し体調の管理をしています。その他にも精神症状なども日報・送り表を活用して管理し個別的なケアに繋げています。	
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	B. ほぼできている	これまで大切にされてきたことを尊重するように取り組んでおり、現在は信仰や食生活を継続している方がいます。また、これまで予防接種を受けて来なかった方へのコロナワクチン摂取も無理強いせず意向に合わせて中止も可としました。	
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています	B. ほぼできている (前回A)	ご自宅で使用されていた家具や物品を持ち込んでいただけるようお願いをしています。居室内で馴染みのある物や大切にされていたものを身近に感じていただき安心感や安らぎを感じていただけるように配慮しています。	
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています	C. あまりできていない	施設内の行事やイベント可能な範囲で実施しています。本人から参加拒否されてしまう事が何度もあるので、今後は本人が参加したくなるような声掛けや対応など工夫をしていく必要があると思ひます。	○イベントの内容や昨年行った時の写真など食堂や廊下に展示してみてもどうでしょうか。参加すると楽しいことを前面に！ ○今後も参加しやすい工夫をして下さい。
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています	B. ほぼできている	利用者ごとに洗濯ものや買い物袋をたたんでいたり、テーブル・手すりを拭くなどの役割活動を実施していただいています。また塗り絵や読書など趣味活動も毎日の生活に取込み、日課としていただいています。	
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができています	B. ほぼできている	利用者同士で積極的に関わらう方々も居れば、他者との関わりに介助を要する方もいます。他者との関わりが苦手な方は、職員との関わりのみになってしまっている方もいますが、本人の気持ち・思いに寄り添って対応しています。	
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々や関わったり、交流することができています	D. ほとんどできていない	新型コロナウイルス感染症の影響で施設外の方々と関わる機会は大幅に減少しています。今後は感染状況を勘案しながら、近隣・地域の方々との関わりを提供できるように工夫していく事を検討していきたいと思ひます。	○新型コロナウイルス感染症はまだ安心できませんが交流したいと思う入所者が十分な対策(マスク・消毒など)をすれば可能ではないか。 ○どんな事で交流が出来るか検討していきたい。
49	総合	本人は、このGHIにいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができています	B. ほぼできている	認知症のある方が、安心して自分らしく生活していけるように、専門性を活かして取り組んでいます。職員は一人一人の要望・想いを実現していく事が困難と感じる事もありますが、思いやりを持ってサービスの提供に努めています。	○入所者への思いやりはやはり重要と思ひます。また、職員さん同士の繋がりも大切です。これからも継続してください。 ○本人にこちらの思いが伝わると良いと思ひます。 ○引き続きお願いします。